

吉村和就新会長インタビュー

——習志野市国際交流協会の新会長としての抱負を聞かせてください。

公私ともに親しく、尊敬する崎山前会長のご意思を引き継ぎ、会員の増強はもちろん、国際交流協会が設立された原点に立って、社会的な使命を達成したいと考えております。協会と習志野市民、市内企業、市内在留外国人と相互に連携し、これまで以上に国際交流を活発化し、そしてコロナ禍が明ける頃には、多くのイベントを再開したいと思っております。会員及び市民総参加型の組織運営を心掛けます。

——吉村会長は、個人的にも様々な国際経験がおりと伺っています。そのきっかけや印象的なエピソードがあれば教えてください。

海外への興味を持ったのは、小学生時、父から鉱石ラジオをもらい、朝晩ラジオを聞いていましたが、ある時英語を聞いてビックリ。世界には様々な言葉があることに目覚めました。中学に入り、アマチュア無線（ハム）の国家試験に合格、秋田の実家の木々は、自作のアンテナだらけ、中学、高校時代は海外2万局以上の無線局と交信しました。勿論共通語は英語です。英作文の成績は悪かったが、ヒヤリングは常に最高点でした(笑)。

大学卒業後はエンジニアリング企業に就職、そこでもできるだけ海外に近い仕事にのめりこみました。英国やオランダから水処理機器の技術導入、中近東の海水淡水化プロジェクト、シンガポールの下水処理場の建設、米国から半導体用排ガス処理装置の技術導入・国産化などを手がけました。大きな転機は、国からの要請により国連ニューヨーク本部への赴任でした。国からの要請は「日本国は、国連への拠出金は、世界で2番目(95年当時)だが、日本の技術が国連でPRされていない、理事会で日本の技術をPRせよ」でした。国連の社会経済局・環境審議官として「発展途上国の水問題解決」を目指し、国際会議の主

催や各国を訪問しました。ニューヨーク同時多発テロ(2001年9月11日)後、日本に帰国し国連環境アドバイザーとして、トルコ、イラン、北朝鮮などを訪問しております。日本及び世界各国の水問題の解決は、私のライフワークです。

——千葉県の中核都市として発展し続ける習志野市にとって、大事なことはなんだと思いますか。

習志野市は首都圏に近く、日本一住みたいまちにノミネートされるなど、ビジネスだけではなく、文教都市として音楽、スポーツ、芸術など誇れるものが沢山あります。これまで以上に国際的な人材を集め、市民とともに多くの国の人々との交流を活性化させることが大事だと考えています。

聞き手：広報部会



吉村和就(よしむらかずなり)新会長 国際会議の講演で